

# れんげんだより 15

## 第15回研修

発行責任者

員弁組連研事務局

松隆寺 渡辺邦俊

## 今月の仏事作法

### 「正信偈の唱法⑤」



梅山 暁さん  
(6日講 常満寺)

\*今回は聖典43ページ、念仏和讃の三重のところ  
です。

\*三重とありますが「サンジウウ」と読みます。初  
重が「レ」、二重が「ミ」で、この三重では「ラ」の  
音が基本となりますが、ものすごく高いです。

\*「引」の記号のところは、これまでと一緒で二拍  
となります。

## POINT

\*44ページ五首目と讃一行目、「光」や「し」の  
ところの見慣れない記号は、「アヒル」ともいわ  
れたりします。発声で気を付けていたくださ  
いのは、滑らかに音下げし、滑らかに上げるよ  
うに意識して発声してください。

\*六首目と讃、4行目、「帰命せよ」の音の高さ  
は「ミ」まで下げて発声しますが、その「ミ」の  
音の高さのまま、次の回向「願以此功德」を  
発声いたします。

\*お勤めは、基本的に調声、代表の方に音を合わ  
せていただくということです。

\*作法ですが、代表の方が回向の二行目で、経  
本を閉じていただかれたら、それに続いて同音  
の皆さんは、回向の三行目で経本をいただく  
という作法があります。そのあと回向の四行  
目「往生安楽国」で鈴(りん)が三つ入ります。  
\*回向の中で経本をいただかない場合は、鈴を  
打ち終わったのち、経本をいただきます。その  
後、お念仏・合掌・礼拝となります。

## 今回のテーマ

「この連研を通して、感じたこと気づいたこと、  
嬉しかったことを話し合ってください。」

### サブテーマ

- (1)「連研」を受けてご自身が変わったこと、変わら  
なかったこと。
- (2)話し合い法座はどうでしたか？(納得したこと、  
疑問点等なんでもOKです)
- (3)お寺ってどんなところでしょうか？(これからど  
ういう場所であってほしい?)
- (4)「連研」を受けて仏教(浄土真宗)はどのような教  
えなのか。

### 問題提起

この一年を振り返っていただくということです  
で、抽象的なテーマではありませんが、皆さんにこの  
一年を振り返りながら語り合っていたらいいと思  
います。

話し合いをするということが、なぜ大切なんです  
よいか。これまでの一年間、コロナ禍ということでも  
スク着用を求められて、話し合い法座の場でなか  
なか相手の表情が読み取れないというしんどさ  
がありました。

よく仏教では「無財の七施(むぎいのしちせ)」というお話が出てきます。その七施の中に眼施(げんせ)(あなたがかいまなざしをいう)、そして、和顔悦色施(わげんえつじきせ)(にこやかな表情をいう)、言辞施(ごんじせ)(やさしい言葉)があります。『和顔愛語』

という仏教用語もごさいますが、柔らかな心、お顔で、優しい言葉で語り合います。

たとえマスクをされていたとしても、このような表情や言葉遣いが読み取れたならば、相手の方も心が和まれることでしょう。

今回、不利な状況ではあったけれど、皆さん真摯に話し合い法座に臨まれて、コミュニケーションをとっておられたと思います。

サブテーマ(1)は、連研を通して、ご自分が変わったと思うこと。逆にこれは変わるのが難しかった、今も同じだということもお話してください。

サブテーマ(2)は、話し合い法座についての思いをお話いただけます。なぜ語り合うだけ、話し合いだけなのか、なぜ討論しないのか、という疑問をお持ちの方も中にはおられると思います。そのあたりもお話し合ってください。

サブテーマ(3)は、お寺と関わっていた際に、お寺はどんなところなのか、これからお寺はどの様な場であってほしいかをお話してください。

サブテーマ(4)は、仏教って、浄土真宗っていったい自分にとって何なんだというような思いをお話しいただきたいと思います。

## 話し合い法座で出された意見(一部)

「ご自身が変わったこと、変わらなかったこと」

\*浄土真宗を知りたかったという思いが以前からあったが、連研を受けるようになって、本を借りたり買ったりして、読んで勉強するようになったことが変化だと思えます。

\*他の人がなぜ浄土真宗に入っているのか知りたいと思っていた。仏教の本を手に入れたりした。でも一年くらいで自分が変わったとは思っていない。

\*浄土真宗についてもっと知りたいと思ったのが連研受講のきっかけ。浄土三部経の中味も何が書かれているかも知りたかった。しかし話し合い法座のテーマにならなかつたので、知れずに納得感を得られなかつたのは変わらなかつたという点。

\*連研に期待していたのは、もっとお経の内容を、例えば歎異抄の中味とかを教えてもらえるかと。そこがちよつと残念。

\*連研で皆さんのいろいろなお話が聞けたのが良かった。

\*自分とは違う視点からの見方がいろいろあるということを知らされた。自分以外のもの、自分と違うものを受け入れるということを学べたのかなと思っている。ただ、実践するところまではいけていないが。

\*連研がきっかけで、寺の永代経や報恩講などに面倒くさがらずにふつうに行けるようになったこと。

\*仏事、お仏壇のお飾り、正信偈の読み方について、学べたこと、それが変わった点。

\*ニュースの内容など、今まで聞き流していたように思ったが、この連研で採り上げられたテーマで話し合った経験から、より考えていく必要を感じることがあったこと。

\*私は自ら発言ができるような人間でなかつたが、この連研の場で意見が言えて、しかも意識的に一番最初に発言するといったことができるようになったこと、これは変わった点です。皆さんに感謝したい。

\*今までは自分をわかってもらいたいというのが第一で、他の人の意見を聞いて、違うけれどこんな考え方もあるということを理解できるようになったことが良かった。

\*いままで浄土真宗や仏教とかお寺とかは、どちらかというとお葬式なんかの時に大きく関わりの出来るものだったが、この連研に参加するようになって、自分の中でそれらがもう少し身近なものとして感じられるようになりました。

## 「話し合い法座への思い。納得点、疑問点」

\*毎回、いっぱなしの話し合いだけで煮え切らずに終わってしまい、不完全燃焼だった。

\*答えが出ない。自分の考えを通したいという自分の自分と異なる場だったので悩ましかった。

\*テーマによっては、自分の考えに照らし合わせて、他の人の意見にそうだよねという同意点が全く

ないとすると、自分の中に人の意見がすーと入ってこず、いつも消化しきれない部分があった。

\*話し合い法座の目的が、一年たった今でもはつきり呑み込めていない。

\*話し合いは思いや考えを語るのだが、討論は意見の出し合いとなる。まったく勉強していないと意見が出せない。だから今の形でよい。

\*この話し合い法座は50分間で、一人おおよそ5分テーマにより3題あるので、1題につき1分30秒。自分の番の時、それ位で抑えていかなければと思いつつ話していました。テーマについての皆さんそれぞれの考えをお持ちなので、そういう考え方もあるのだなと思いつつ聞いていました。

\*テーマの設定が大きすぎると話しづらい。お経のことばとか、歎異抄の中から取り出した部分をテーマにするのもよいのでは。

\*いただいたカリキュラムをみて、テーマを見ていくとお寺の連研なので、このテーマとお寺をどうやって結びつけたらいいの、私はどういいう話をしたらいいの？とちよつと苦になって足が重くなった時もあった。もちろんしゃべりやすいテーマで日常考えてることをお話しできる時もあった。

\*連研期間中に、いろいろな疑問点が出るようになったのは良い点。ある仏事の場面で、出会った僧侶何人かにそれぞれ違う場で同じような問い掛けをしたら、答えが微妙に違っていた。しかしながら、そういう質問ができるようになったのは連研に参加させてもらっていたからだと思う。

\*話し合いのテーマが想像していたものとはかけ離れて違っていた。みんなに意見というより、話しをさせるという思いでのテーマなのかなと思う。

話し下手な自分にも、これだと話せるし、自分を表現するというにはよい場だと思う。

\*受講者間での話し合いなので、詳しい話はできない。中に僧侶がもっと入って、ぶつけた疑問に答える形が一、二度あってもよい。

「お寺ってどうあってほしいか」

\*同じような格好をしていても、住職によって違う考えをしているように感じる。そのあたり、温度差を感じる。

\*心の依りどころ。自分の存在意義を見出したい。困っている人にもっと手を差し伸べてほしい。

\*お寺の二男と同級で、小さいころから寺が遊び場だった。ふだんは入れない所もよく知っている。なので、寺には馴染みが深い。その後、仏壮に入ってもらって役員もし、とりあえず誰もに寺に来てもらうことが第一という考え方。馴染んでもらうことが大事だと思う。

\*小さいころから、お寺と接する機会があるのは、成長段階においてはとても良いと思う。

\*なじむことがまず大事。昔のようにお寺が中心という風ではないので、何かあったら集まるような、そのためにはたとえ仏壮・仏婦などのグループがいるだろう。まず行かなきゃ始まらない。

\*若い人にとって、寺は敷居が高いところがあるの

では。それをなんとかしないと。

\*お寺に行かなければならないという機会はあっても、お寺に行きたいなという機会はほとんどない。お寺に足を運びたくなくなるような場を作るように、お寺と門徒双方が考えていくべき。

\*お寺はどんなところかと明確にしたうえで、若い人をもっと呼び込める場にしないと先がない。

\*敷居が高い、精神的隔たりがあったと思う。子どもころから慣れ親しんだというような経験があれば別だが、大人になって関係ができたような場合、影響が強いのは、なんといっても親の発言、姿勢。いわば古いイメージしかないようなとき、普段気軽にに行けるような場所ではない。

\*キッズサンガとか、小さいころから行事に参加する場があつて、お寺に行けるのはうらやましい。そうすれば将来自然と寺に足が向くようになると思うので、子どもたちを対象にして活動していくのがよいのかなと思っている。

\*新興宗教と違い、お寺は布教活動をあまりしていないように思う。新しい家ができて、法要案内の働きかけなど何らなされていない。誰でも参加できるような呼びかけに、むしろ行きたくないような、土曜や日曜日の法話会や集まりなどの声掛けや案内があつてもよいのでは？

\*戸別訪問しての布教活動をしないのが浄土真宗の良いところかもしれない。しかし、集まって話し合う場があるのは良いことだと思う。

\*小学生の孫が学童に行っている時、世話をしてく



れた女学生が食事直前に合掌し小さく何か言っているのを見て、孫が問うた時、母の在所が寺院なので祖父から食前のことばを教えられて身についたのだという。そのことばの意味を聞いた孫が、その影響がどうかかわらないが、虚弱体質で食べ物の好き嫌いの多い子だったが、その後ほとんど治った。この事例から、寺院という環境に縁あって育つことが少なからず影響するんだということに感動した。また、こういう話をできる場があつて、みんなで感動し合えたことがうれしい。

### 「仏教とはどんな教え?」

\*阿弥陀さまについて、僧侶からどのようにとらえているか伝えてほしい。

\*近頃、考えられないような犯罪が起きている。道徳心をもう少し高めるようなところを仏教に期待したい。信仰は個人の自由とはいえ、親の信仰を次世代につないでいくことも大事だと思う。

### 今回のまとめ

今回のテーマは具体的な事についての話し合いではありませんでしたので、いっそう話しにくい面もあったかと思われれます。その要因に「自分自身の内にある思い」を語り合い、聞き合う回と感じられたことと思います。意見の中にも出されていましたが、全く知らない方々と、普段話し合ったこともないテーマで一年間続けてこられたわけですので、消化

不良や、分かり合えたか疑問も残ったとの意見もありました。テーマ自体も話し合うには難しかったとのご意見も頂きました。

一方で、その疑問も含め、気が付けば、お互いが聞き合い話し合えるようになったことは、よかったことと思うし、皆さんに感謝したいという、ご意見も頂きました。また、自分とは違う視点からの見方がいろいろあるということを知らされた。自分以外のもの、自分と違うものを受け入れるということを学べたのかなと思っている。との貴重なご意見も頂きました。



長崎恵水さん  
(6日講 照光寺)

正に、今まで皆さんが取組んでこられた話し合い法座とは、お互いの意見を「聞き合う」ことによつて、答えの出なかった人生の問いや、お互いの思いを共有することができるところが「連研」だったと感じて頂きたいと思えます。元来、自分という存在が、他の人(家族、友人、地域、同僚等)と関わる中で、お互いに思いを共有できることは大変難しいことです。喜びもそうですが、我が身の抱える悩み、苦し

みが生ずる問題となると尚更です。

まとめの中でも申しましたが、仏教は本来、私を離れたところに教えがあるのではありません。また、生きとし生けるもの全ての「救い」を第一の目的にするものです。

第14回の話し合い法座、ご講師のまとめの講話で、仏(阿弥陀如来)は衆生(私)の救いと、自らの悟りを成し遂げること(自力・利他円満)によって仏となられた方であると教えて頂きました。今回は、実際、経典(大無量寿経・下巻)の中に、その仏様が教えによつてどのような世の中(私)になっていくか?を紹介させて頂きました。したがって振り返って頂くと一年間皆さんと共に取り組んでまいりました連研のテーマは仏様の教えと寸分も違(たが)うこととは無かったと感じて頂きたいと思えます。ご指摘のように世の中が激変していく中、その教えを伝えていく役割である寺院も時代に合わせ、老若男女参拝しやすいよう工夫していく必要があると痛感しますが、それには住職はもとより、皆さんのお力をお借りしたいと思っています。その根底にあるのは「ご自身の思いが、世の中(世間)中心ではなく、仏様の教えを中心とした人生(喜びも、悲しみも)を共に歩いていく「御同行・御同朋」(ささえあう、なかま)として、これからも一緒に進んできたらと、切に願います。